

第廿四條 馬車ヲ並へ馳セ行人ノ妨害ヲ爲ス可ラ

〔解〕 本條ハ馬車ヲ並へ馳セルモ未ダ行人ニ妨害

ヲ加ヘサル前之ヲ制止スルニ止ルモノトス故

ニ若シ行人ニ妨害ヲナシタルハ刑法第四百

二十九條第三項ニ依テ罰セラルベシ

第廿五條 行人ノ妨ケトナル場所へ駐止ス可ラズ

〔解〕 本條若シ駐止シテ行人ノ妨害ヲナシタルハ

刑法第四百二十九條第二項ニ依テ罰セラル

ベシ

第廿六條 夜中燈火ナクシテ疾驅ス可ラズ

〔解〕 本條ハ燈火ナクシテ未ダ疾驅セザル前ニ之

ヲ制止スルニ止マリ若シ疾驅スルハ刑法第

四百二十七條第三項ニ依テ罰セラルベシ

第廿七條 馬匹ヲ慘酷ニ鞭撻驅逐ス可ラズ

〔解〕 本條別ニ解ヲ要セズ

第廿八條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ

罰セラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ停止又ハ禁

止スルコトアルベシ

〔解〕 本條ノ場合ト見認ムルハ其理由ヲ第一局

へ報告スルモノトス又本廳ニ於テ停止若クハ

禁止ヲ命ジタルハ第一局ヨリ各警察署へ通

知アルモノニ付警察署ニ於テハ参照ノ爲メ便

宜簿冊ヲ製シ置クヘキナリ

第廿九條 途中ニ於テ危險ノ虞アリト思量スル馬

車ハ巡查ニ於テ一時其使用ヲ停止スルコトアルヘ

シ

〔解〕 本條ノ場合ニ在テハ毎月受クル所ノ検査證

ヲ取揚ケ差出スベキナリ警察署ハ之ヲ第一局

ニ送ル但車體ノミカ又ハ馬匹ノミカ一方ハ全

キモノト見認ムルハ其危險ノ分ノミニ限ル

モノトス

第三十條 馬夫自ラ牽キ馭者ヲ用ヒザルモノ其他

營業ニ非ルモノハ此規則第一條ヨリ第十四條迄

及ビ第十八條第十九條ヲ除クノ外之ヲ遵守スヘシ

〔解〕本條別ニ解チ要セザレトモ唯一言ス可キハ本

條ニ記載シタルモノハ營業者ニ非ザルモノナ

云フ

第一號書式

私儀左ニ記スル馬車ヲ以テ營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

何郡〔區〕何町村何番地〔寄留〕

〔何府縣〕士族〔平民〕

年號月日 何 誰 印

警視總監姓名殿

一 乘合馬車〔貸馬車荷馬車〕

一 馬

當區村内在藉ノ者ニ相違無之候也

第三號書式 何區長〔何戶長姓名印〕

私儀馭者〔馬丁〕營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

住所氏名及ヒ與書等都テ第一號ニ同シ

第三號書式

私儀何郡〔區〕何町〔村〕何番地ヨリ何郡〔區〕何町〔村〕何番地

ニ移轉仕候間〔御渡ノ鑑札遺失〔紛失〕又ハ毀損仕候

付〕鑑札御書換御渡方奉願候也

住所氏名及ヒ與書等都テ第一號ニ同シ

第四號 車馬檢査日割

第二月曜日 麴町區 日本橋區

同 火曜日 神田區 赤坂區

同 水曜日 牛込區 淺草區

同 木曜日 芝區 小石川區

同 金曜日 四谷區 下谷區

本所區 荏原郡

東多摩郡 南豐島郡

北豐島郡 南足立郡

南葛飾郡

同 土曜日

京橋區

麻布區

本郷區

深川區

一 檢査ノ日ハ午前八時出頭之事

〔參照〕

明治十四年十二月廿二日警視廳第三百三十二號達
今般甲第五十五號ヲ以テ馬車取締規則改正布達

候ニ付テハ處分手續左之通可心得此旨相達候事

馬車取締規則處分手續

第一條 馬車取締規則ニ依リ鑑札ヲ下付シタル人

名ハ其都度第一局ヨリ所轄警察署ヘ報告スヘキ

ニ付報告表ハ末ニアリ警察署ニ於テハ其報告表

ヲ保存シ廢業ノ旨届出タルハ該表中廢業ノ科

目ニ記入シ置クヘシ

第二條 規則第一條及ビ第八條ニヨリ鑑札並檢査

證〔離形末ニアリ〕返納シタルモノハ一ヶ月分取纏

メ翌月三日迄ニ第一局ヘ送致スヘシ

第三條 規則中第廿八條ニヨリ營業ヲ停止若シ

テ禁止スヘキモノト認ルルハ其理由ヲ第一局ヘ

報告スヘシ

但本廳ニ於テ停止若クハ禁止ヲ申渡シタルハ

ハ直ニ第一局ヨリ通知アルモノニ付各警察署

ニ於テハ別ニ簿冊ヲ製シ記載シ置キ參考ニ供

スヘシ

第四條 馬匹ノ檢査證ハ其馬ニ附着シ車體ノ檢査

證ハ馭者携帯シ居ルモノト心得ベシ

第五條 規則第廿九條ニヨリ巡査ニ於テ一時使用

ヲ停止シタルハ前條檢査證ヲ取揚ゲ警察署ヘ

差出ス可シ警察署ハ速ニ第一局ヘ送致スヘシ

但シ本文ノ場合ニ於テ車體危險ト認ムルハ

該證ノミ取揚グルモノト心得ベシ馬匹モ亦同

警視廳

警視廳印		
一月日	二月日	
三月日	四月日	
五月日	六月日	
七月日	八月日	
九月日	十月日	
十一月日	十二月日	

竪四寸

馬車検査證

第何號
馬車検査證

用紙厚雁皮三ツ折
竪四寸

〔参照〕

明治十四年十二月七日警視廳甲第五十二號布達
人力車取締規則左ノ通相定來ル明治十五年一月
一日ヨリ施行候條此旨布達候事
但從前營業之者ハ規則ニ準シ組合ヲ設ケ鑑札受
取方願出ヘシ

第一條 人力車ノ營業ヲ爲サントスルモノハ警察
署一管内毎ニ組合ヲ設ケ第一號第二號書式ニ準
シ組合頭取加印ノ上區ハ區長郡ハ戶長ノ與印ヲ
受テ所轄警察署ヘ願出鑑札ヲ受ケ廢業ノ節ハ之
ヲ返納スヘシ尤組合ハ便宜ニ依リ合併スルヲ得
但雇人ニ車ヲ挽カシメ營業スルモノハ雇人一人
ニ付鑑札一枚ツハ願ビ受クヘシ
〔解〕 本條ハ營業者ノ鑑札出願方及ビ廢業鑑札返
納方ヲ定ムルモノトス
本條鑑札ヲ下附シタル片ハ末ニ記スル雛形ノ
帳簿ヲ製シ置キ記載スヘキモノナリ且鑑札受

取方ハ警察署ヨリ第二局へ申出ルモ之ヲ
第二條 人力車營業者トハ人力車ヲ貸シ又ハ自ラ
所有車ヲ挽キ或ハ雇人ニ挽カシメ及ビ借車ヲ挽
キ營業ト爲スモノヲ云フ

〔解〕本條ハ營業者ト稱スルモノハ何人ナルヤチ
明示シタルモノナリ

第三條 人力車所有ノモノハ其住所姓名及ビ車ノ
番號ヲ記シタル木札ヲ長四寸車ノ蹴込右方ニ釘
付スベシ

〔解〕本條ハ他人チシテ明瞭シ易ラシムルノ主旨
ニ出ルモノニ付漆等ヲ以テ蹴込板ニ表記スル
モ妨ナキナリ〔明治十四年十二月廿六日第三百三
十四號達參照〕

第四條 賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警視廳ノ認可
ヲ受ケ車ノ蹴込正面ニ表記スベシ

〔解〕本條ハ乘客等チシテ明瞭シ易カラシムル旨
組合中ノ車夫ナルヲ證明スルコトヲ求ムルハ之

第五條 人力車ヲ輓シモノハ鑑札ヲ携帯シ何人ニ
限ラズ要用ノ場合ニ於テ見シテ求ムルハ之
ヲ示スベシ

〔解〕本條ハ別ニ解チ要セズ

第六條 轉居改姓名及ビ鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ
雇人チ更換シタルキハ第三號第四號書式ニ準ジ
第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ但轉居
改姓名及ビ雇人更換ヲ除ク外區戶長ノ與印ヲ要
セズ

〔解〕本條ハ營業者ニシテ事故アリ更ニ鑑札書換
又ハ下渡チ出願スルノ條件ヲ定メタルモノナ
リ茲ニ其手續ヲ分ツテ二トナス一ニ曰ク書換
願〔轉居改姓名雇人更換〕ニ曰ク下渡願〔遺失毀
損〕一ノ場合ニ在テハ區長又ハ戶長ノ與印ヲ要
シ二ノ場合ニ在テハ與印ヲ要セザルナリ然ル
キハ其願ノ内鑑札ヲ毀損若シクハ改姓名等ニ
テ願出ル分ハ事實取調ノ上最前ノ番號ヲ記シ

遺失等ニ係ルハ順次番號ヲ付シ下付スルモノ
ニシテ且其趣ハ帳簿ニ記スベシ但毀損等ノ鑑
札ハ取揚ケ遺失等ニ係ルハ番號姓名ヲ第一局
ニ報告スベシ

第七條 鑑札ヲ貸借シ及ビ檢印ヲ轉用スヘカラズ

〔解〕 本條ハ組合ニ入ラズ鑑札ヲ受ケズ他人ノ鑑

札ヲ借リテ營業ヲナスモノ及ビ之ヲ知リ鑑札

ヲ貸シ營業ヲ爲サシムルモノ及ビ檢印ヲ轉用

スルモノヲ禁スルノ條件ナリ

第八條 車内ニ遺留品アルキハ其主分明ナルハ之

ヲ還付シ然ラザルハ速カニ警察署ニ届出ツベシ

〔解〕 本條之ニ背ク者ハ違警罪ヲ以テ罰スルノ限

ニアラズ即チ刑法第三百八十五條ニ依リ罰セ

ラル可シ〔馬車取締規則第十三條註解參觀〕

第九條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過ス

ルキハ徐行シ且ツ懸ケ聲ヲ爲スベシ

第十條 軍隊及ビ車馬ニ行逢フキハ左ニ避ケ及ビ

坂道ハ上リ車之ヲ避クベシ尤郵便馬車ニ行キ逢
フキハ殊ニ避讓ニ注意スベシ

第十一條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ

聲ヲ爲スベシ前車ハ便宜之ヲ避ケ後車ヲ通過セ

シムベシ

〔解〕 第九條ヨリ本條マデハ單ニ危難ヲ避クルノ

精神ニシテ別ニ解ヲ要セズ

第十二條 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢無

禮ノ言行ヲ爲スヘカラス

〔解〕 言行トハ言語動作ヲ云フ

第十三條 乗客ニ對シ約束外ノ金錢ヲ請求スヘカ

ラス

〔解〕 本條ハ馬車取締規則第十八條トシキモノ

ニシテ素トヨリ約束外ノ金ヲ請求スヘカラサ

ルハ論ヲ待タサレモ若シ其約束ノ事ニ付紛紜

ヲ生シタルキ等ノ場合ニ於テハ頗ル困難ナル

可シ尤處分手續第五條ニ明文アルニ付組合規

則第八條ニヨルハ正當ノ様ニ見ユレハ實際此
 等ノ場合ニ在テハ亦之ヲ適用スルヲ能ハサル
 ナリ故ニ總テ約束ト云フモ之ヲ證明スルモ
 ノ有ルニ非ルヨリハ到底定額ヲ以テスルノ外
 ナキモノナルベシ但果シテ犯シタ者タルハ
 ハ住所姓名ヲ第一局ヘ報告スベシ第一局ハ之
 ナ組合本社頭取ヘ通スルモノトス
 第十四條 猥リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカ
 ラス

〔解〕 馬車取締規則第二十條註解參觀
 第十五條 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所
 へ輓キ入ルベカラス

〔解〕 馬車取締規則第二十二條註解參觀
 第十六條 壹人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗ス
 へカラス但十歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ壹人ト看
 做シ保護人アル三歳未滿ノ者ハ定員外トス
 〔解〕 本條ハ馬車取締規則第七條第三項第四項ト

同シキモノニシテ此規則ニ於テ一人ト稱スル
 ハ何年以上ナルヤヲ定メタルモノナリ本條定
 ムル所ハ滿十年以上ノ者ヲ以テ一人ト稱シ十
 年未滿三年以上ハ二人ヲ以テ一人ト看做スナ
 リ且本條一人乗リニハ二人以上ヲ乗スヘカラ
 ズ二人乗ニハ三人以上ヲ乗スヘガラストアル
 ニヨリ世或ハ論ナキニ非ラズ例ヘハ一人乗ノ
 車ニ大人一人十年未滿ノ者一人都合二人乗ル
 ヲ得ルヤノ疑是ナリ或ハ曰ク右等ノ場合ニ
 アリテハ是ヲ二人ト看做サ、ルヲ得ズ唯本條
 ニ十年未滿ハ二人ヲ以テ一人ト見做トアルハ
 一人乗ノ車ニ十年未滿ノ者二人乗ルモ之ヲ一
 人ト看做スヲ得ルニ止マリ其内一人大人ア
 ルキハ到底二人ト看做サ、ルヲ得スト夫レ或
 ハ然ラシ然レモ二人以上或ハ三人以上トアル
 上ハ二人乗リニ十年未滿ノモノ五人乗ルモ二
 人半ニ準ズル者ナレハ三人以上ヲ以テ論ズル

第十七條 失火場三丁以内ニ車ヲ入ルヘカラズ
 [解] 本條ハ別ニ解ヲ要セズ
 第十八條 車ヲ並ヘ挽キ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラズ

[解] 馬車取締規則第二十四條註解參觀
 第十九條 一人ニテ二輛以上ノ車ヲ連子輓クヘカラズ但空車二輛ヲ連ラヌルハ妨ケナシ
 [解] 本條ハ別ニ解ヲ要セズ
 第二十條 往來ノ妨トナルヘキ場所ニ車ヲ駐止スヘカラズ

[解] 馬車取締規則第二十五條註解參觀
 第二十一條 街燈アル地ヲ除ク外夜中燈火ナクシテ車ヲ疾驅ス可ラズ

[解] 馬車取締規則第二十六條註解參觀
 第二十二條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラレ、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ禁止スルコト

アルヘシ
 [解] 本條ノ場合ニ於テ若シ營業ヲ禁止スヘキモノト見認ルルキハ具ニ第一局ニ報スヘキモノトス

本條ニ於テ禁止ヲ申渡シタルハ直ニ第一局ヨリ警察署及ビ組合頭取ヘモ通スルモノニシテ且本條ノ處分ヲ受ケタル者ハ二ケ年間營業ヲ許サルナリ

第二十三條 自用人力車ニ在テハ此規則第一條ヨリ第八條迄及ビ第十二條第十三條ヲ除ク外ハ之ヲ遵守スヘシ

[解] 本條ハ營業者ニ非ルモノハ此規則ノ全體ヲ守ルノ限ニアラザルヲ示スナリ

第一號書式
 私人力車所有人力車ヲ輓夫雇人營業仕度候間鑑札
 御渡方奉願候也

何郡區何町村何番地寄留

〔何府縣〕士族〔平民〕

何 誰 年 齡 印

組合頭取

何 誰 年 齡 印

當區〔村〕內 警視總監姓名殿
寄在籍ノ者ニ相違無之候也

何區長何戶長姓名印

第二號書式

何郡〔區〕何町〔村〕何番地〔寄留〕
〔何府縣〕士族〔平民〕

何 誰

年 齡

右之者雇入人力車ヲ輓カセ度候間鑑札御渡方奉願候也

〔雇主住所姓名及ヒ奥書等都テ前ニ同シ〕
第三號書式

私儀何郡〔區〕何町〔村〕何番地ヨリ何郡〔區〕何町〔村〕何番地

ハ移住候ニ付〔御渡〕ノ鑑札遺失紛失又ハ毀損或ハ改姓名仕候ニ付〔鑑札御書換御渡方奉願候也

〔住所姓名及ヒ奥書等都テ前ニ同シ〕
第四號書式

何郡〔區〕何町〔村〕何番地〔寄留〕

〔何府縣〕士族〔平民〕

何 誰

解雇

同上

同上

雇入

何 誰

年 齡

右之通雇入雇替候間鑑札御書替奉願候也

〔雇主住所姓名及ヒ奥書等總テ前ニ同シ〕

〔參照〕

明治十四年十二月九日警視廳第一百十八號達
本年十月十二日甲第五十二號ヲ以テ人力車取締規則布
達候ニ付テハ處分手續左之通可相心得此旨相達候
事

人力車規則處分手續

第一條 人力車營業者ノ鑑札別鑑札書式ハ下附スル時ハ別紙雛形ノ帳簿ヲ製シ置キ詳細記載スベシ但鑑札受取方ハ第一局ヘ申出ツベシ

第二條 鑑札ヲ毀損又ハ改姓名等ニテ更ニ下渡ヲ願出ルキハ事實取調ノ上最前ノ番號ヲ記シ遺失等ニ係ルモノハ順次番號ヲ付シ下付スベシ尤其趣ヲ帳簿ヘ登記スベシ但毀損等ノ鑑札ハ取揚ゲ遺失等ニ係ルハ番號姓名ヲ直ニ第一局ヘ報告スベシ

第三條 金錢ヲ貪リ其他犯狀ノ重クシテ規則第廿二條ニ依リ營業ヲ禁止スヘキ者ト認ムルキハ具

第一局ヘ報告スベシ

第四條 組合規則第七條第十六條ニ依リ組合各頭

取ヨリ某人鑑札返納申出タルキハ篤ト事實取調

ノ上受理シ直ニ第一局ヘ報告スベシ

第五條 貸錢上ク紛紜ヲ生シタルキハ組合規則第

八條ニ依リ處分スベシ

第六條 規則第十三條ヲ犯シタル者ハ住所姓名ヲ

其都度第一局ヘ報告スベシ但第一局ニ於テハ直

ニ組合本社頭取ヘ通達スルモノトス

第七條 毎月左項ノ員數翌月三日迄ニ第一局ヘ報

告スベシ

一鑑札下付ノ數

二廢業ノ數

三人力車ノ現數一人乗ノ別

第八條 組合各頭取ノ内不都合ノ所業アリテ其任

ニ適セザルト認メタル者ハ其事情ヲ第一局ヘ報

告スベシ

第九條 組合規則第七條第十六條ニ依リ鑑札返納

シタル者ハ滿一年間及ビ規則第廿二條ニ依リ營

業ヲ禁シタルモノハ滿二年間營業ヲ許サハルモ

ノトス

第十條 組合頭取ヨリ會計出納簿ノ檢閲ヲ乞フキ

ハ調査ノ上署印ヲ捺シ下付スベシ

鑑札

書式

鑑札文字ハ都テ楷行ヲ要ス

何郡[區]何町[村]何番地[寄留]
[何府縣]士族[平民]

○貸人力車營業 何之誰
年 齡

何郡[區]何町[村]何番地[寄留]
[何府縣]士族[平民]

○所有 人力車輓 何之誰
營業 年 齡

何郡[區]何町[村]何番地[寄留]
[何府縣]士族[平民]

○借人力車輓 何之誰
營業 年 齡

何郡[區]何町[村]何番地[寄留]
[何府縣]士族[平民]

○人力車營業 何之誰
輓夫雇主 年 齡

何郡[區]何町[村]何番地[寄留]
[何府縣]士族[平民]

○人力車輓夫 何之誰
年 齡

明治 年 月 日



番號

美濃郵紙ヲ以テ製シイロハ付テ以テ見出シテ付ケ逐次
記入スルモノトス甲組合ノ警察署管内ヨリ乙組合ノ警
察署管内ニ轉居營業スルモノハ甲署ニ於テ廢業者ト看
做シ乙署ニ於テハ新營業ノ取扱ヲナスモノトス而シテ
番號ハ各署混交セザル爲メ京橋警察署ナレバ京ノ第何
號ト各署ノ頭字ヲ記スベシ

鑑札ノ番號	下附ノ年月日	廢業ノ年月日	營業種類	住族	所籍	姓名年齢

〔參照〕

人力車營業禁止名簿
 是レハ右離形ノ帳簿ニ倣ヒ製シ置キ營業者ノ内禁止者ノ姓名第一局ヨリ通知ヲ受ケタルモ此帳ニ記載シ又處分手續第五條第十三條ノ場合モ同局ヨリ通報シタルモ此帳ニ區別ヲ立置キ記載シ總テ參考ニ供スルモノトス

人力車組合規則
 第一條 東京府下人力車營業組合ヲ設ケ本社ヲ府下中央ノ地ニ定メ警察署管區毎ニ分社ヲ設ケ本社ニ正副頭取各一名宛テ置キ社中一切ノ事務ヲ取扱フ可キ事但本社正副頭取及ビ分社頭取ハ假ニ出願人ノ内ヲ以テ投票シ他日組合一定ノ上ハ衆議ヲ盡シ更ニ監視廳ニ伺出ルモノトス
 第二條 頭取任期ハ滿一年トシ毎年十二月ニ至リ更ニ改撰シ本社頭取ハ監視廳ニ御届申上分社頭取ハ警察署ニ御届可申事但人力車五輛以上所有スルモノニ限リ撰舉權ヲ有スル者トス

第三條 分社ハ一管區毎ニ設置スヘキモト雖モ
 車ノ多寡ニ應ジニ管區ヲ合セ一分社ヲ置クヘキ
 事
 第四條 御規則第三條ニ御掲載有之候車所有主番
 號札ヘ左ノ烙印致置キ可申事



人力車
 組合
 印
 一 寸 五 分 四 方

第五條 人力車ヲ營業セントスル者ハ其所分社頭
 取加印ノ上出願致サス可キ事但本文ノ場合ニ於
 テハ手数料トシテ金壹錢可差出事
 第六條 輓夫ニシテ現組合ヲ離レ他ノ組合ニ加入
 スルキハ甲分社頭取ヨリ乙分社頭取ニ通知シ乙
 分社頭取ヨリ更ニ鑑札受取方警察署ヘ願出ツ可
 キ事
 第七條 營業上不都合ノ所業アルモノハ組合員ヲ
 除名シ鑑札返納可爲仕事但本文ノ場合ニ於テハ

該姓名ヲ本社ニ通告シ本社之ヲ各分社ヘ報告シ
 分社頭取ハ組合中ヘ廣告ス可キ事
 第八條 挽子職業中他人ヘ損害ヲ加ヘタルキハ雇
 主ニ於テ一切相辨可申事
 第九條 怪シキ風體ニテ乗車ヲ乞ヒ又ハ不審ナル
 物品ノ運送ヲ托スル者アルキハ速ニ警察署等ヘ
 密告可致若シ其違ナキキハ行先ヲ認メ前同様告
 知可致事
 第十條 賃錢ハ左ノ割合ヲ以テ營業可致事但乘客
 ト相對ニ定ル賃錢ハ此限リヨアラズ

一晝	八里	八錢	以內
一夜	廿里	廿錢	以內
一風雨晝	廿二里	廿二錢	以內
一停車時間	三時間	三錢	以內
一壹人乘ニテ二人輓	三十二里	三十六錢	以內
	一時間	三十二錢	以內

一 同夜 一里間 三十八錢以內

一 二人乗ニテ一人輓 一里間 二十四錢以內

一 同夜 一時間 廿八錢以內

第十一條 警視廳ヨリ下附セラレタル鑑札ヲ攜帶セズ又ハ貸錢表ヲ掲出セザル車ヲ輓ク者等組合員ニテ見認ルルハ本分社ニ告知スヘキ事但他管下ヨリ輓キ來ル車ハ此限リニ非ス

第十二條 第七條第十一條ノ所爲アルモノハ本分社頭取ヨリ所轄警察署ヘ申告スヘキ事

第十三條 營業上ニ管スル御達等ハ社員ニ於テ漏洩ナク輓夫等ヘ教示ス可キ事

第十四條 組合入費及本分社頭取世話料トシテ連月人力車壹輛ニ付前月三十七日ヨリ金二錢ツ、差出ス可キ事但本分社頭取以下世話料其他雜費ヲ引去リ殘金ヲ添ヘ翌月十日限リ本社ヘ差出シ而

ノ計算簿ヲ製シ所轄警察署ノ檢閲ヲ乞ヒ而シテ組合一同ヘ報告シ殘金アラバ第十五條ノ手續ニヨルベシ尤本社頭取世話料ノ儀ハ各分社ヨリ支辨スルモノトス

第十五條 各社ノ諸費ヲ支辨シ殘金アルキハ該分社頭取ハ本社正副頭取立會金員ヲ調査シ而シテ驛遞局又ハ銀行等ニ預ケ置キ組合死亡者ノ内貧困孤獨ニシテ實際悠蕙ノモノハ葬祭料等ヲ贈與シ又ハ該分社共有ノ人力車ヲ調製シ廉價ヲ以テ貸與スヘキ事

第十六條 各社員ハ第十四條ニ掲グル金員及ビ警察署ヨリ下付セラレタル鑑札ト共ニ頭取ヘ差出シ分社頭取ハ金員ト鑑札トヲ照合シ符合スルニ於テハ鑑札ハ本人ヘ差戻シ分社頭取ヨリ本社ヘ其顛末ヲ報告スベシ若シ之ヲ怠ルキハ分社頭取ヨリ警察署ニ對シ該鑑札返納方願出ツベキ事

第十七條 本分社頭取以下世話料左ノ通相定メ可

申事

- 一 本社頭取 壹ヶ月金拾五圓以内
- 一 本社副頭取 壹ヶ月金拾圓以内
- 一 本社頭取書記 壹ヶ月金六圓以内
- 一 同小使 壹ヶ月金四圓五拾錢以内

五 諸藝人取締規則ニ違背シタル者

〔解〕

本條諸藝人トハ申樂、角觥行司、軍談、落語、踊、道化踊、操人形、義太夫、長唄節、常盤津、岸澤節、清元節、富本節、一中節、河東節、富士松、歌澤節、新内節、荻江節、松家節、都節、浪花節、櫻川節、常盤家節、青柳節、七色節、歌祭文、吾妻能狂言、能狂言、手品、曲獨樂、倭獅子舞、輕業、視目鏡、鳥遣、猿遣、洋犬遣、獅子面舞、等ヲ總稱スルモノニシテ是等其取締ノ爲メ設クル所ノ規則ニ違背スル者ヲ罰スルノ條件ナリ今其一二ヲ舉グレバ明治十一年二月五日警視本署甲第十一號達及ヒ明治十一年三月十日警視本署乙第九號達及ヒ明治十年二月八日東

〔參照〕

京府甲第十七號布達等ノ如キ即チ其類ナリ
 明治十一年二月五日警視本署甲第十一號布達
 角觥并行司取締規則及興行場取締規則左ノ通相
 定候條此旨布達候事

- 第一條 角觥及行司ヲラント欲スルモノハ其區長並組合取締ノ奧印ヲ以テ警視本署へ願出鑑札ヲ受クベシ但シ鑑札料トシテ上等金拾錢下等金五錢ヲ納ムベシ
- 第二條 居處ヲ轉ズルルルハ第一條ノ手續ヲ以テ鑑札書換ヲ願出ツベシ但廢業ノ節ハ所轄警察署へ鑑札相添届出ツベシ
- 第三條 角觥及行司ハ東京府下チ一組トシ角觥年寄行司ハ重立クル者ニ年番ヲ定メ組合取締ヲナスベシ但年番交換ノ都度其姓名届出ツベシ
- 第四條 無鑑札ノ者及ビ組合ニ入ラズシテ其業ヲナスヲ許サズ

〔參照〕

明治十一年三月十二日警視本署乙第九號ヲ以テ
 區戸長へ達
 諸藝人開業鑑札受願書區々ニテ不都合候條左ノ
 第一號書式ニ照シ爲認可申且從前鑑札受居候者
 ハ第二號書式ニ照シ爲認來ル廿五日限リ頭取
 於テ取纏メ爲差出可申此旨相達候事
 第一號 用紙半紙二々通リ
 第何大區何小區何町何番地
 何 某 印

藝名

何 某

右開業ニ付鑑札御付與何ニ付何等ニ(昇降)等候間
 鑑札御書換何大區何小區何町何番地へ轉住候間
 鑑札御書換被下度且本人事故有之納稅差支候ハ
 引受人ニヨリ上納可仕候也

年月日

右 何 某 印

〔參照〕

大警視姓名殿
 明治十年七月八日東京府甲第十七號達
 寄セ席ニ無之家屋ニ於テ免許ヲ得タル藝人若ク

大警視姓名殿
 第二號 用紙半紙一ト通リ

第何大區何小區何町何番地
 引受人 何 某 印
 何藝頭取 何 某 印
 戸長 何 某 印

何 某 事

藝名

何 某

右ハ私引受人ニ相立候間藝業上ニ係ル事故ニ
 付本人差支筋有之節ハ私引受可申候也

第何大區何小區何町何番地
 何 某 印

大警視姓名殿

何 某 印

ハ免許ヲ得ザル藝人ヲ引招シ演劇ニ類似ノ所業
致シ木戸鏡見料等取受候節ハ免許ヲ得タル藝人
ハ勿論免許ヲ得ザル藝人并席主共明治九年九月
當府甲第百三號布達ニ照準可致處分候條此旨布
達候事

但免許ヲ得サル藝人ハ免許ヲ得タル藝人上等
月税ノ三倍ヲ追徴ス(明治九年甲第百三號布達
ハ職ヲ寄席取締ノ部ヨアリ)
編者曰ク諸藝人ト云フハ俳優間藝妓モ包括ス
ル様見ユレモ本項云フ所ハ前ニ掲クルノミヨシテ
俳優等ハ包含セサルナリ

六 人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ鱣鱧ノ干場ヲ設ケ
タル者

〔解〕 本條鱣鱧ハ臭氣ノ甚シキモノニ付人身ノ健康ヲ
害シ衛生上禁ゼザルヘカラサルモノトス既ニ明
治十一年三月廿九日本署乙第十三號ヲ以テ達セラ

〔參照〕

レタルトアリ今之ヲ左ニ掲ケテ參照ニ供ス
明治十一年三月廿九日警視本署乙第十三號達
鱣鱧乾製之儀ハ朱引内人家稠密ノ場所ニ於テ製
造候儀自今不相成候條右營業ノ者ニ可相達事
但朱引外ト雖モ製造場取設ル節ハ伺出實地檢査
ヲ可受事

七 神佛祭典等ノ節強テ出費ヲ促シタル者

〔解〕

本項ハ強テノ二字眼目ナリ故ニ若シ出費ヲ請フ
モ強テ之ヲ促カスニ非レハ之ヲ罰スル能ハス如
何トナレハ甲ニ於テ強テ促スハ乙ノ權利ノ幾部ニ
妨害ヲ加フル者ニ付罰セサルヲ得スト雖モ乙ニ於
テ承諾シ紛紜ナキニ於テハ素ヨリ本項問フ所ニ非
ラサルナリ

七二二 八 強テ合力ヲ申掛ケ若クハ物品ヲ押賣シ其他種々
ノ所爲ヲ以テ他ニ妨ケヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ他人ノ迷惑ヲ豫防スルニ出ルモノトス
 強テ合力ヲ申掛ケ若クハ物品ヲ押賣スルハ他人
 ノ權利ヲ妨害シ迷惑ヲ掛ル最モ甚シク且風俗上ニ
 モ大ニ關係スルモノナリ故ニ其所爲アルモノハ則
 チ此項ニ因リテ以テ罰スルモノナリ其他種々ノ所
 爲ヲ以テ他ニ妨ケテ爲シタル者トハ即チ其罰ス可
 キ旨趣ハ前段ニ述ル所ト敢テ異ナルコトナシト雖モ
 其之ヲ罰スル場合ニ至リテハ少ク異ナルナリ即チ
 其他種々ノ所爲ヲ以テ云々其所爲トハ其引例一々
 枚舉スルニ違アラスト雖モ其一ニナシ學ダレハ例
 ハ一月ノ頃都下ニ徘徊スル獅子舞ノ如キ或ハ所々
 戸毎ニ店頭ニ立十三絃ヲ彈シ猥リニ投錢ヲ促ス如
 キ等ノモノヲ云フモノナリ前段強テ合力ヲ申掛ケ
 物品ヲ押賣スルモノハ其所業アルヤ直ニコノ項前
 段ノ罪トナルモノナレハ後段即チ其他種々ノ所爲
 ヲ以テ云々ニ至リテハ其所爲ヲナシタリトテ直ニ
 之ヲ以テ罰ス可キモノニアラス其所爲ヲ以テ他ニ

九

工事等ノ際雇使スル者ヲ故障シタル者

〔解〕

本項ハ舊來ノ慣習ヲ改良スルノ主旨ニ出ルモノ
 トス

妨ケテ爲シタル後チ初メテ罪トナルモノナリ看ル
 モノ其レ之ヲ混同スル勿レ
 從前ハ大工左官家根屋其他ノ諸職人等自己ノ出
 入得意ト唱へ斷リナク他ヨリ諸職人ヲ雇入ルハ
 ハ故障ヲ述へ甚シキニ至テハ夫カ爲メ紛擾ヲ生ジ
 人身ニ創傷ヲ加へシ等ノ類例少シトセス是等ノ如
 キハ舊來ノ習慣ト雖モ實ニ惡弊ノ極ト謂ツ可キナ
 リ夫出入得意ト云フモ雇主ニ於テ便宜トスルヲ以
 テノ故ナレハ雇主ニ於テ之ヲ雇フト雇ハザルトハ
 固ヨリ其權内ニ在ルモノト然ルチ如斯行爲ヲナ
 スハ則チ人ノ權利ニ妨害ヲ加フル者ナレハ保護上
 之ヲ罰セサルチ得ザルナリ

十

裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露シ其他醜體ヲ爲シ

路上ニ行歩シタル者

〔解〕

本項ハ風俗ノ紊亂ヲ防止スルニ出ルモノトス凡テ醜體ヲナシ路上ニ居ルハ實ニ之ヲ罰セザルヲ得ズ本項現ニ行歩ノ二字アル上ハ歩行シタル者ニ限ルモノ、如シト雖モ本項ノ精神ハ路上ニ佇立スルモ固ヨリ罰スルノ意ナリ何トナレハ行歩セスシテ路上ノ中央等ニ居ルヲ得ザレバナリ

十一 夜間十二時後歌舞音曲等其他喧噪シテ他ノ安眠ヲ妨クル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ

〔解〕

本項別ニ解ヲ要セズ但シ告訴ナシト雖モ妨害ト認ムルハ臨機行政權ヲ以テ制止スルハ妨ケナシトス尤モ之ヲ肯セザルモ告訴ナキハ罰スル能ハサルナリ

十二 海藻魚類等ノ干場へ妨害ヲ爲シタル者

〔解〕

凡テ他人ノ商業ニ妨害ヲ加ルハ素ヨリ不良ノ所爲ナリ本項ハ單ニ魚類海藻ノ干シアル場所へ瓦礫ヲ抛棄シ或ハ土芥ヲ投込ニ其他種々ノ妨害ヲナスヲ云フ

十三 制限ニ背キタル筏ヲ河川ニ浮へ又ハ運漕シタル者

〔解〕

本項ハ梓筏ノ制限ニ背キタル長大物ヲ河川ニ浮へ又ハ運漕スルヲ云へルモノニシテ刑法第四百廿九條第一項等ノ外ニ係ルモノナリ則チ其制限トハ左ノ如シ

〔參照〕

明治七年一月廿日東京府第七號達

- 當府癸酉年坤第百廿九號布達府下川々往來ノ筏
- 制限之儀今般更ニ左之通改正候條此旨相達候事
- 一 大小川々ノ區別ナク筏長十五間幅二間ト相定候事但本文制限ノ以下ハ自由ニ任候事
- 一 川筋途中暫時ノ休憩ハ凡一時間又ハ河岸場へ

陸揚ハ三時間ト相定候得共第六大區中小名木川六間堀川ヲ除クノ外通船ノ妨碍ニ不相成河岸ハ格別ノ事

一 橋梁杭木ニ妨ケ致間敷或ハ通船差支相成候箇所へ猥リコ繋キ候儀不相成候事

十四 濫リニ川中へ杭木ヲ打立テタル者

〔解〕

本項濫リニトアルハ眼目ナリ若シ川中へ杭木ヲ建設セントセバ出願ス可キナリ官署ニ於テ實地檢査ノ上妨害トナラザル所ト見認ムルハ便宜許可スルヲアルベシ然ルニ濫リニ杭木ヲ打建ツル者アレバ罰セザルヲ得ザルナリ則チ此件ニ付テハ明治十一年六月四日甲第三十九號ヲ以テ警視本署ヨリ達セラレシトアリ

〔參照〕

明治十一年六月四日警視本署甲第三十九號布達舟筏繋留其他ノ爲猥リニ川中へ杭木打建候儀不相成候條自今可打建ノ事由並圖面添警視本署へ可

願出此旨布達候事

十五 外國人ヲ私ニ止宿又ハ雜居セシメタル者

〔解〕

外國人ヲ止宿又ハ雜居セシムルハ固ヨリ規則アリ其手續ヲナサズシテ私ニ止宿又ハ雜居セシメタルヲ云フ

〔參照〕

明治八年十一月二日太政官第百八十九號達外國人遊歩規程内ニ於テ旅籠渡世ノ者ニ限リ外國人止宿差許候條外國人止宿セシメ候節ハ宿主ヨリ戶長又ハ役場へ可届出若シ病氣療養ノ爲永ク止宿セシメ候節ハ日數七日毎ニ管轄廳へ届出候様可致此旨相達候事

〔參照〕

明治十一年三月廿七日警視本署乙第十二號達本年甲第廿號ヲ以テ達式罪目第十四條改正布達候ニ付テハ外國人遊歩規程内ニ於テ止宿セシメ候儀ハ明治八年十一月八日東京府達ノ通り可相心得尤届出之儀ハ其都度國號人名等取調所轄警視分署

～可差出若シ病氣療養ノ爲永ク止宿セシメ候節
尙日數七日毎ニ共段同署へ届出候様旅人宿渡世ノ
者へ可達置此旨相達候事

但本文届出方ニ付自然本人ノ迷惑ニ不相成様注
意可爲致事

〔参照〕

明治十一年九月九日太政官第四十號達

明治八年十一月第百八十九號ヲ以テ外國人遊歩

規程内止宿ノ儀ニ付相達置候處自今旅籠渡世ノ

者ニ非スト雖ヒ兼テ懇親ノ外國人ヲ招泊セシメ

又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ宿泊セシ

ムルハ苦カラズ尤長又ハ役場へ届ケルハ前達

ノ通可相心得此旨相達候事

〔参照〕

明治十一年三月十八日内務省丙第十二號達

本年當省乙第十五號ヲ以テ違式罪目第十四條改

正ノ儀相達候處外國人遊歩規程内ニ於テ止宿セシ

メ候節届出方ハ明治八年太政官第八十九號達ノ通

可心得ハ勿論ノ儀ニ付人民ニ於テ誤解セザル様諭

達可致此旨相達候事

十六 各所ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者

〔解〕

各所ニ榜示シタル禁條トハ墨堤又ハ須崎堤等ニ
アル此枝折ルベカラズ此堤登ルベカラズトアル
ガ如キヲ犯シタル者ヲ云フ

十七 新聞紙雜誌雜報類ヲ途上ニ讀賣シタル者

〔解〕

新聞紙等路上ニ讀賣スルハ糞ニ明治十二年十二
月以前流行シタルモノニテ就中彼ノ兩文社ニテ
甚シカリシモノ全月八日ヨリ以後讀賣ノ儀ハ停止セ
ラレタリ

〔参照〕

明治十二年十二月八日警視本署甲第四十一號達
新聞紙及ビ雜誌類讀賣儀自今一切不相成候條此
旨相達候事

五三二 十八 紙屑拾ヒノ者官ノ檢印アル名札ヲ貸借シ又ハ

其記名ヲ變更シ若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セザル者

〔解〕

本項ハ紙屑拾ヒノ者住所姓名等ヲ表示シ其何人タルヲ知易ラシムルニ出ルモノナリ
紙屑拾ヒノ者タルヤ醜キ體ヲナシ何處トナク所々徘徊スルモノナレバ其何人タルヲ表示スルニ非ラサレバ之ニ狐疑ヲ抱クモノ之レナシトセズ故ニ官ヨリ檢印アル名札ヲ下渡シ屑籠ニ表示セシム然ルニ官ヨリ下渡サレタル名札ヲ貸借シ又ハ其記名ヲ變更シ若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セザル者ハ此項ヲ以テ罰スルモノナリ

〔參照〕

明治十一年四月三十日警視本署甲第三十五號布達

紙屑拾ヒノ者自今左ノ雛形ノ木札ヲ添へ其區戸長ノ奥印ヲ以テ警視本署へ願出檢印ヲ受ケ必ス携提ノ紙屑籠へ表出可致此旨布達候事

長八寸

何區何町何番地
何誰
何年何月
何年何月

十九 旅人宿ニ於テ郷貫氏名ヲ詐稱シタル者

〔解〕

本項ハ宿泊者ノ郷貫氏名ヲ詐稱スルヲ防止スルニ出ルモノナリ
宿泊者ノ郷貫氏名ヲ帳簿ニ登錄スルハ固ヨリ一定ノ制規アリ必ズ其帳簿ニ記載シ其住所姓名ヲ確實ナラシムルモノナリ然ルニ其郷貫氏名ヲ詐稱シタルハ則チ此項ノ罪タリ

七三二
二十 官許ヲ得ズシテ神輿ノ巡行佛刹ノ開帳ヲ爲シ其他山車ヲ牽キ又ハ手踊ノ興行ヲ爲シタル者

〔解〕

本項ハ神輿ノ巡行佛刹ノ開帳其他山車ヲ牽キ手
 踊ノ興行ヲナス等必ズ官ノ許可ヲ得サシムル爲
 設ケタルモノナリ
 神輿ノ巡行佛刹ノ開帳其他山車ヲ牽キ又ハ手踊ノ
 興行ヲナス等敷多ノ人道路ニ雜沓スルモノナレバ
 或ハ喧噪混雜スルノ虞ナシトセズ故ニ妄ニナス可
 カラサルモノナリ故ニ神輿ノ巡行其他ノ場合ニ於
 テハ官ニアリテモ相當ノ保護ヲ施サザル可カラズ
 即チ豫テ官ニ出願シ許可ヲ受ク可キモノナリ然ル
 ニ官許ヲ得ズシテ其所行アルキハ則チ此ノ項ヲ以
 テ罰ス可キモノナリ

違警罪注解附録目次

- 第一 違警罪ノ審判ニ關スル手續ハ治罪法ニ從フ
 ヘント雖モ止ヲ得サルキハ便宜取計ニ其裁判言
 渡ニハ上訴ヲ許サル事
- 第二 違警罪ハ當分ノ内府縣警察署又ハ分署ニ於
 テ裁判セシムルノ事
- 第三 違警罪處分手續ノ事
- 第四 違警犯調書々式ノ事
- 第五 證人陳述書式ノ事
- 第六 違警犯裁判言渡書式ノ事
- 第七 警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表并既
 決犯罪表調成方及差出方ノ事
- 第八 拘留ニ處セラレタル者ニ關スル食費等請求

方ノ事

- 第九 違警罪附帶ノ私訴ハ警察署ニ於テ理由ヲ示シ却下スベキノ事
- 第十 科料納完期日ノ疑義及納完スル目的ナキモノトハ如何ナル者ナルヤノ事
- 第十一 科料金上納證ノ事
- 第十二 違警罪審判ニ係ル事件表書式及添書式并差出方日限ノ事
- 第十三 各地方ノ人民出京ノ當日未タ宿所定マラザル内違警罪ヲ犯シタルモノ處分方ノ事
- 第十四 拘留ニ處シタルモノ執行場所ノ事
- 第十五 明治十四年警視廳第三百三十六號達ニ屬スル書式へ追加ノ事

違警罪注解附録

違警罪犯治罪手續

- 第一 違警罪ノ審判ニ關スル手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ已チ得サルモハ便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニハ上訴ヲ許サ、ル
- 明治十四年九月廿日太政官第四十四號布告
- 違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フベシト雖モ實際已ムチ得ザル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サ、此旨布告候事
- 第二 違警罪ハ當分ノ内府縣警察署又ハ分署ニ於テ裁判セシムル
- 明治十四年十二月二十八日太政官第八十號布告
- 本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス
- 違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判ス可キ處當分ノ

内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムベシ
右奉 勅旨布告候事

○第三 違警罪處分手續ノ一
明治十四年十二月二十八日警視廳第三百三十六號違
違警罪處分手續別冊之通規定候條右ニ照準可取扱此
旨相達候事

違警罪處分手續

第一條 違警罪犯判事ノ職務ハ警察使之チ行ヒ檢察
官ノ職務ハ警察副使之チ行ヒ書記ノ職務ハ書記之
チ行フベシ

第二條 但事故アル時ハ便宜一名ニテ執行スルモ妨ナシ
裁判管轄ハ其警察署ノ區畫ヲ以テ限リトス

第三條 違警罪ニ附帶ノ私訴ハ警察署ニ於テ裁判ス
ベカラズ

第四條 違警罪ノ現行犯アル場合ハ治罪法第百二條
ニ依リ其氏名住所等申立ルモ確認シ難キ者ハ所管

警察署へ引致スルヲ得

第五條 其軍人軍屬ニ在テハ直ニ本人ヲ憲兵屯所分
屯所へ引致シ其旨警察使ニ申告スベシ

第六條 拘留ノ刑ニ處シタル者ハ其警察署ノ留置場
ニ於テ執行シ科料ハ即時納完セシム若シ即納スル
能ハサル者ハ刑法第三十條ニ依ル可シト雖モ其限
内納完スルノ目的ナキ者ハ刑法第二十七條ノ例ニ
照シ直ニ拘留ニ換フベシ

第七條 警察取締規則ニ違背シタル者ヲ處分シタル
時營業禁止又ハ停止ノ意見アル者ハ其調書ノ謄本
ニ意見ヲ附記シテ翌日中ニ主務ノ局へ送付シ其他
ハ一周日毎ニ事件表ヲ以テ報告スベシ
但通牒ノ順序等特ニ處分手續アル者ハ其手續ニ
從フベシ

○第四 違警犯調書々式ノ事

明治十五年十二月三十一日前十二時迄
附門新田千八百九十四番地甲田乙右附門捕ノ死屍ヲ

道路ニ棄擲取除カサルハ違警罪ニ觸ル、モノト思量
スルヲ以テ此旨告發ス
明治十五年十二月三十一日

此告發ニ依リ引致スル被告人ニ左ノ訊問ヲナシタリ
巡查 何 某 印

問 姓名住所所族籍職業年齢ハ
答 南葛飾郡八郎右衛門新屋千八百五十四番地平

民慶甲田乙右衛門六十五年一月十日

問 汝被告事件ヲ承認スルヤ

答 然
右讀聞セタルニ相違ナキ旨ヲ甘結シ姓名ヲ手記シ捺
印セリ

明治十五年十二月三十一日

被告人 何 某 印

警察 副 何 某 印

前條ノ理由ナルヲ以テ何某ハ違警罪第四百廿七條第
項ニ觸ル、者ト認定スルヲ以テ別紙裁判ヲ言渡シ

タリ

明治十五年十二月三十一日

警察

○第五 證人陳述書式

何某被告事件ニ付、
區、
町、
番地何某

ハ治罪法第百八十一條ニ記載シタル者ニ非ルヲ述ベ

左ノ宣誓ヲナシタリ

何某被告事件ニ付愛憎畏懼ノ心ナク總テ正實ニ陳
述ス可キヲ誓フ

證人 何 某 印

續テ左ノ訊問ヲナシタリ

問 何某被告事件ノ何、
、
、
、
、
セシハ汝儘ニ

認タリヤ

答 何、
、
、
セシハ自分認メタレハ確實ナリ

右讀聞セタルニ陳述ヲ固執シ共ニ署名捺印セリ

明治何年何月何日

警察 正 何 某 印
副 何 某 印

○第六 違警犯裁判言渡書式ノ一
證人
裁判言渡書

南葛飾郡八郎右衛門新田
千八百五十四番地
平民農

甲田乙右衛門

汝ハ明治十五年十二月卅一日居宅前道路ニ猫ノ死屍
ヲ棄擲取除カサル所爲刑法第四百廿七條ヲ犯シタル
者ニ付科料壹圓廿五錢申付ル
但此言渡ニ付テハ明治十四年第四十四號布告ニ依
リ上訴ヲ許サズ

警察署

○第七 審判シタル違警罪事件表并ニ既決犯罪表
警察署
調成方及ビ差出方ノ一

警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表并既決犯罪表
別紙様式ニ照準シテ調成スベシ尤モ違警罪事件表ハ
治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達
候事(別紙様式末ニ在リ)
明治十四年十二月十九日司法省丙第十九號ヲ以テ警
視廳府縣ニ達

〔參照〕 治罪法第五十二條違警罪裁判所檢察官ハ毎月
未決既決ノ事件表ヲ作リ輕罪裁判所檢事ニ差出ス
ベシ○事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見
アルキハ之ヲ附記スベシ
○第八 拘留ニ處セラレタルモノニ關スル食費等
請求方ノ事

明治十五年一月廿七日警視廳第九號達
違警罪ヲ犯シ罰金ヲ徵收スル能ハズシテ拘留ノ刑ニ
處セラレタル者ニ關スル食費并諸費ハ留置人ト區別
シ別途請求スベシ此旨相達候事
○第九 違警罪附帶ノ私訴ハ警察署ニ於テ理由ヲ

示シ却下スベキノ事

明治十五年一月九日麻布警察署伺同年二月一日指令ノ内

第一十四年十二月本廳第三百三十六號達違警罪處分

手續第三條ヲ除クノ外違警罪裁判所判事ト同一ノ

職權ヲ有スルヤ又私訴ハ警察署ニ於テ受理シ管轄

裁判所へ送附スルヤ或ハ却下シ然ルヘキ哉

〔指令〕第一條 前半伺ノ通後半違警罪附帶ノ私訴ハ

裁判ス可カラサルモノニ付理由ヲ示シ却下スル儀

ト心得ベシ

○第十科料納完期日ノ疑義及納完スル目的ナキ

モノトハ如何ナル者ナルヤノ事

明治十五年一月九日麻布警察署伺同年二月一日指令

ノ内

第二同第六條中ニ科料ハ即時納完セシムトアリ刑

法第三十條ニ抵觸スルカ如ク被考候且ツ其限内納

完スルノ目的ナキ者トハ如何ナル者ヲ指ス哉

〔指令〕第二條 前半刑法第三十條ニ抵觸スルコトナシ

後半限内納完スル目的ナキトハ定マル住居ナク住

居アルモ貧窶ニシテ到底納完スル目的ナキモノト

見認タル場合ヲ指シタル儀ト心得ベシ

○第十一科料金上納證ノ事

明治十五年二月二日警視廳第十三號達

違警罪科料金上納證ノ儀自今別紙之通相定候條此旨

相達候事

但上納手續ハ従前違註犯科料金ノ通可相心得事

〔雛形末ニ在リ〕

○第十二 違警罪審判ニ係ル事件表書式及ヒ添書

式并ニ差出方日限ノ事

明治十五年二月二日警視廳第十二號達

違警罪審判ニ係ル事件以來別表ニ照準調整ノ上其月

添書式

分翌月三日限リ東京輕罪裁判所檢事へ可差出候旨相

達候事

治罪法第五十二條ニ依リ明治何年何月分違警罪事件
表差出候也

何警察署

檢察官

警察副使何某印

年月日

東京輕罪裁判所

檢事 御中

〔事件表ハ明治十四年十二月十九日司法省丙第十九
號達事件表ト粗相同シキヲ以テ略之〕

〇第十三 各地方ノ人民出京ノ當日未ダ宿所定マ

ラサル内違警罪ヲ犯シタル者處分方ノ事

明治十五年二月九日巡查本部伺同年二月十五日指令

各地方ノ人民出京ノ當日未ダ宿所定マラサル内違警

罪ヲ犯シ候者其氏名並郷里ノ住所等分明ナルハ昨十四年

還可致ハ當然ニ候得ヘ共違警罪處分ノ儀ハ昨十四年

九月第四十四號ヲ以テ特ニ御布告之趣モ有之候事ニ

ハ前件ノ場合ノ者モ亦正則ニ據ラズ東京ニ宿所定マ

ラサル點ヲ以テ直ニ該警察署ヘ引致爲致可然哉

〔指令〕住所姓名確認スヘキ證據アルハ治罪法第二十

一條ニ依リ證據ナキハ違警罪處分手續第四條ニ依ル

儀ト心得ベシ

〇第十四 拘留ニ處シタル者執行場所ノ事

明治十五年二月廿八日警視廳第十八號達

違警罪ヲ犯シ拘留ノ刑ニ處シタル者ハ警察署留置場

ニ於テ執行スヘキ旨違警罪處分手續第六條ニ掲載ス

ト雖モ多人數ニテ執行ニ差支候節ハ左ノ執行狀ニ裁

判官渡書ノ寫ヲ附シ鍛冶橋監獄署ヘ送致可致此旨相

達候事

原籍住所

職業

姓名

何年何月何日言渡

違警罪拘留何日

右頭書之通裁判言渡相成候條執行可有之候事

何警察署

明治何年何月何日
○第十五 明治十四年 警察副使何ノ某
スル書式ニ追加ノ事 警察副使何ノ某
明治十五年三月二日 警視廳第二十二號達
明治十四年第三百三十六號達ニ屬スル書式左ノ通追加
候條此旨相達候事

科料ヲ拘留ニ換フル命令
住所身分職業
氏名

汝ハ明治何年何月何日 違警罪ヲ犯スニ因リ科料何圓
何拾錢申付ル處限内納完スル能ハザルニ付刑法第三
十條ニ依リ拘留何日申付ル

明治何年何月何日
免訴言渡
何警察署
警察正使何 某
印

汝ニ對シ何々ノ公訴アルモ(證據充分ナラザル)(期滿免
除ニ係ル)ヲ以テ免訴ス

無罪言渡



テ無罪
アルモ犯罪ノ證據ナキヲ以

棄却言渡



キモノナルヲ以テ棄却ス
其事件ハ告訴ヲ待テ論ス可

又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノトニ關
 スル犯罪ナルヲ以テ久シカラズシテ常ニ復スベシト
 思考ス
 又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員等
 ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ルコト能ハザルニ由
 ル
 又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原因セリ因テ久シカラ
 ズシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス
 署長意見ヲソハ亦前文ニ準ズ

用紙美濃界紙

明治何年何月中違警罪科料金上納證			
一金何程			
内譯			
追徴月日	金	員	事
何月何日	金	何	程
以下何項ニテモ準之			
右 上納候也			
何警察署			
警察使姓名印			
年月日			

何區何村何番地
 或ハ何某
 方寄留
 何
 某
 違警罪何條何項ヲ犯シ追徴ノ分

明治十五年三月廿九日版權屆

警視廳御用書物師

定價金七十錢

發兌人

東京日本橋區西河岸町十二番地
須原鐵二

賣

同通壹丁目十五番地
北畠茂兵衛

同淺草區茅町貳丁目
北澤伊八

同日本橋區吳服町十二番地
坂上半七

同通三丁目
丸屋善七

東京京橋區銀座四丁目
博聞本社

弘

書

橫濱辨天通貳丁目
師岡伊兵衛

西京寺町通り四條上ル
田中治兵衛

神戸相生橋東詰
兵庫縣御用書林 熊ヶ谷幸助

大坂高麗橋二丁目二十三番地
同支店

肆

同心齋橋筋南久寶寺町
前川善兵衛

同本町四丁目
岡島真七

印

刷

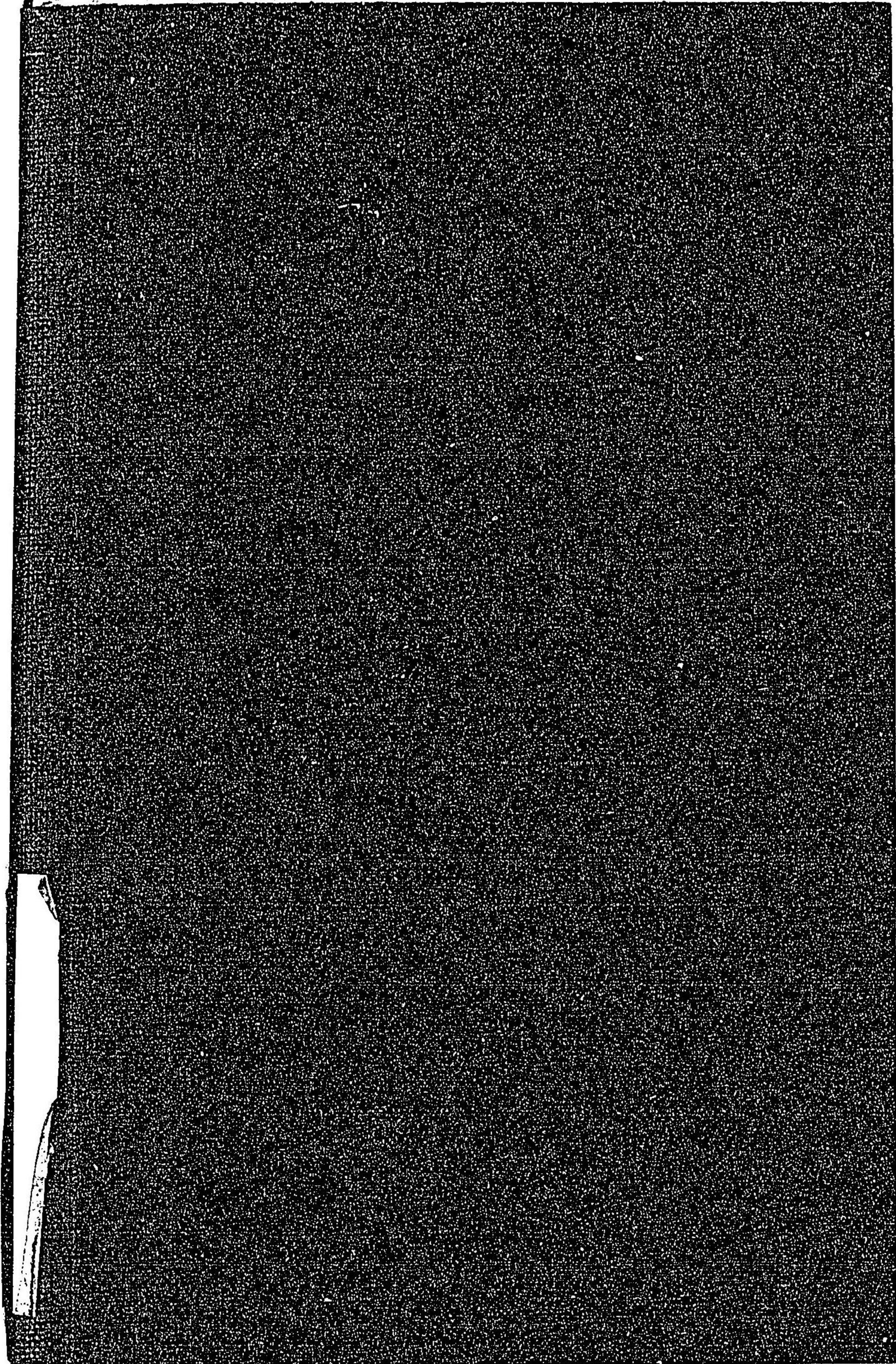
東京京橋區元數寄屋町四丁目
稻田活版所

館

大日本教育會館

函架號

一	一	一
冊	九號	架
		六函



特 14

549

違警罪註解

国立国会図書館

035971-000-1

特14-549

現行違警罪註解

富岡門前巡查屯所／編

M15

BBP-0582

